



山野草 オキナグサ

多年草で、風通しの良い山野に自生しています。春、焦げ茶色に近い濃い赤紫色の花。羽毛のようなふわふわとした種子が出来、名前の由来は、この種子を老人の白髪に見立てたからだと言われています。

ニュース **2022.4.1** Vol. **248**
とうめい news

〒243-0034 厚木市船子237
 TEL. 046-229-3377
 発行者:河野 昌史
 編集責任者:和田 博貴
 印刷: (有)タイム21

ホームページアドレス <http://www.tomei.or.jp/clinic/>

TOPICS

**安心して受診いただけるクリニックを目指して
 ～コロナ禍における感染対策～**

いつも当院をご利用いただきまして誠に有難うございます。私はとうめい厚木クリニックで事務責任者をしております和田博貴と申します。

今回は当院がコロナ禍で実施してきた感染対策をご紹介させていただきます。SARS-CoV2（新型コロナウイルス）は2019年12月に中国湖北省武漢市を中心に発生してから、非常に感染力が強く瞬く間に全世界に広がりました。日本でも2020年4月には感染者が2,000人を超え、4月7日から第1回目の緊急事態宣言が発令されました。

ウイルスに対する情報が少ない中、当院で最初に行ったことは、正面入口外では職員が交代で来院される方全員に実施した検温です。その結果、発熱や風邪症状がある方については外に設置したコンテナ内で診療を行いました。コンテナでの診療は3ヶ月間実施し、その間に発熱外来専用の待合室と診察室の造設工事をして、現在はそちらの場所で発熱や風邪症状の方の診療を行っております。また人的に行っていた検温については現在では正面入口にAIによる体温サーモグラフィを設置し対応しています。他にも毎日定期的に待合室の椅子や手すりなどを消毒する作業を継続しています。

職員の感染予防対策としては職員用通用口に手指消毒液を設置し、徹底して手指消毒を行っております。また職員からクラスターを発生させないために毎朝の健康観察、有症状者には出勤前コロナ検査の義務付け、飲食は会議室の広いスペース

でディスタンスを保った黙食などを行っております。今回は一部のご紹介となりましたが、他にも様々な取り組みを実施しております。

このような状況の中でも、職員一人一人が感染予防に対する高い意識を持っていること、医療従事者として強い使命感を持ち、新型コロナウイルス感染の可能性がある患者さんに対しても防護服を身にまとい臆することなく対応をしている姿を見て私自身誇りに思っております。

コロナ禍において当院をご利用いただいている方々には大変ご不便をお掛けすることが多くあったと思います。皆様のご理解やご協力をいただいたことで診療をストップさせることなく安定した医療提供を継続して行うことができたことに心より感謝しております。

これからも感染対策をしっかりと行い安心して受診していただけるクリニックを目指して取り組んでまいりますので今後とも当院をどうぞよろしく願いたします。

事務長 和田 博貴

